

第 1 回城端線・氷見線再構築検討会の開催結果

1. 日時 令和 5 年 7 月 30 日（日）10 時 30 分から 11 時 30 分まで
2. 場所 県庁 4 階大会議室
3. 出席委員
新田知事、角田市長、林市長、夏野市長、田中市長
JR 西日本金沢支社漆原支社長、北陸信越運輸局笠原鉄道部長（オブザーバー）
4. 概要
 - (1) 城端線・氷見線再構築検討会設置要綱案について了承
 - (2) 北陸信越運輸局笠原鉄道部長から地域交通法の一部改正等について説明
 - (3) 鉄道事業再構築実施計画について説明
 - (4) 砺波市から資料（様々な新型鉄道車両）配布
 - (5) 今後検討を行う鉄道事業再構築実施計画について、意見交換の結果、以下の 3 点について合意
 - ① 3 月に公表した城端線・氷見線 LRT 化検討会の検討結果として示した利便性・快適性の向上策を計画に盛り込むこと。
 - ② 城端線・氷見線の事業主体について今後議論をしていくこと。
 - ③ 今後の検討に当たってはスピード感を持って進めていくこと。
 - (6) 意見交換（主なもの）
 - ・ 城端線・氷見線 LRT 化検討会で検討してきた内容を実施計画に反映してもらいたい。
 - ・ まちづくりの中で、城端線・氷見線をどう位置付けるか整理していく必要がある。
 - ・ 運行本数や接続についてどのような優先順位にするのかといった、前提条件の整理が必要
 - ・ 実施計画の策定にあたっては、事業構造の変更の内容をどうしていくかも大事なポイント
 - ・ 城端線・氷見線とあいの風とやま鉄道が接続する高岡駅でのダイヤの工夫や直通化を考えると、あいの風とやま鉄道にも議論に入ってもらいたいのではないか。
 - ・ 利便性の向上策は、事業者だけで実現していくのは体力的に難しい。路線の持続可能性を高めて、地域の未来につなげていくためには、県、沿線 4 市、JR で役割分担、責任分担を考慮しながら地域全体で支えていく最適な枠組みを目指していく必要がある。
 - ・ 事業主体については、検討会でしっかり議論していく必要がある。具体的にあいの風とやま鉄道の名前も出たが、他にもステークホルダー（利害関係者）がいるので、意見をしっかり聞く必要がある。
 - ・ 安全対策は、鉄道事業者がしっかり取り組んでいく課題であり、検討会の議論とは別に日々安全に運行できるよう努力していきたい。
 - ・ 城端線・氷見線の議論は、沿線住民の関心も非常に高く、スピード感を持って取り組むことが重要
 - ・ 新年度予算のこともあるので、年内の取りまとめをめざすべき。